



高度な知識と 技術を身に付け、多くの 人々を救う医療人へ。

Faculty of Medicine

医学部

- ▶ 医学科
- ▶ 看護学科

■ 佐賀大学医学部の使命

医および看護の実践とその科学的創造形成の過程を通じて医学および看護学の知識技術ならびに医師または看護職者たるにふさわしい態度を修得し、かつ、これらを生涯にわたって創造発展させることのできる人材を養成することを目的とし、もって医学および看護学の水準および地域医療の向上に寄与する。

■ 卒業時学修成果

- プロフェッショナリズム
- 医学的知識
- 安全で最適な医療の実践
- コミュニケーションと協働
- 国際的な視野に基づく地域医療への貢献
- 科学的な探究心



日本医学教育評価機構(JACME)による医学教育分野別評価の結果、適合が認定されています。

看護学科

石本 尚子 福岡県 京都高等学校出身
岸田 和之 佐賀県 唐津西高等学校出身
立尾 風香 熊本県 天草高等学校出身

〈学部の特長〉

医学部は、四半世紀におよんだ旧佐賀医科大学の建学の精神と伝統を受け継ぎ、「医学部に課せられた教育・研究・診療の三つの使命を一体として推進することによって、社会の要請に応え得るよい医療人を育成し、もって医学・看護学の発展ならびに地域包括医療の向上に寄与する」ことを基本理念としています。そして、時代にマッチした斬新な教育方法を取り入れ、豊かな感性と高度な専門知識と専門技術を兼ね備えたよき医療職者を育成することを目標として教育を行っています。また、医療に関する単なる知識や技術を学ぶのみでなく、医療職者に求められる広い視野からの問題解決能力と、病める人が心の奥に持つ悩みや苦しみを共感できる心を育てます。

■ 教育目標

医学部は、教育・研究・診療の三つの使命を一体として推進することによって、社会の要請に応えうるよき医療人を育成し、もって医学・看護学の発展ならびに地域包括医療の向上に寄与することを基本理念とします。

アドミッション
ポリシーはこちら



■ 在学生インタビュー



保健師と看護師、両方の国家資格を取得し 臨床の現場で経験を積み重ねていきたい。

高校3年の時にコロナが流行ったことで保健師の仕事が取り上げられるようになり、4年間で看護師と保健師の両方の資格が取得できる本学科に進学しました。特に好きなのは、基礎看護技術の授業です。看護師の基礎的な技術を講義で理解した後、演習を行うことで確かな習得を目指します。また各学生にチューターがつき、学習や学生生活についての悩みや不安を相談しやすい体制が組まれているのも、本学科の大きな魅力だと思います。4年次には看護師と保健師の国家試験を受験し、卒業後は看護師として臨床現場で経験を積みたいと考えています。将来的には、看護師を続ける他にも保健師への転向も視野に入れています。

看護学科
坂田 大陸 長崎県 佐世保西高等学校出身

インタビュー動画も
ご覧いただけます



医学部 サガつく ポイント

医療現場での経験を数多く積み、 誠実なよい医療人を育成

01 グループ学習・自己学習で 自ら考える力を身に付ける

医療の現場で活躍できる人材を育てるために、医学科・看護学科では自ら考える力や行動する力を身に付けるための独自カリキュラムを実施しています。少人数でのグループワークやグループ討論を行いながら、チューターがきめ細かくフォローを行い、現場に出た際に即戦力となる実力を身に付けます。

チューター制度とは



チューター（指導教員）といわれる教員が一人ひとりの学生に付くことで、学習や生活での悩み、進路相談などついてきめ細かくアドバイス。質問や相談がしやすい環境を整え、より深い学びをサポートします。

医 学 科

ハワイ大学のカリキュラムをもとに佐賀大学が独自に作り上げた、シナリオからディスカッションで解決策を導くPBLやCBLなどのカリキュラムを取り入れています。患者の症例から病名を予測し治療法を導くという医療現場に近い流れを経験しながら知識を深め、自ら情報を整理して診断・治療法にたどり着くプロセスを学びます。

◎PBL (Problem-based Learning) 問題基盤型学習

① 問題事例の提示

学生に問題点を自ら見つけてもらうきっかけとなる事例・課題を提示します。



② グループ討論

7～8人の少人数グループを作り、与えられた事例・課題文より症例を検討し、学習の課題を抽出します。



③ 自己学習

グループによる課題を各自が参考書・文献・教科書・インターネットなどを使い自己学習します。



④ グループ討論

各自が学習してきた事例を他メンバーが学習した内容と突き合わせてディスカッションし問題を解決します。



◎CBL (Case-based Lecture) 症例基盤型講義

PBLより、応用課題のみの実施に特化した形がCBLです。症例の事前配布・テーマの提示による予習を前提とし、コンパクトな症例シナリオを多数使用。少数の専門チューターが全体を指導しながら、症例を検討して解決へと導きます。また、学生に自己学習を促し、自己指導型学習を強化します。

① 課題を提示する

② 課題に基づき事前の自己学習

③ グループ討論・全体討論

看 護 学 科

看護師教育を基盤に保健師・助産師教育に選抜制を採用。600床以上の大規模な附属病院で実践的な実習を行い、医学科とも連携できる充実した教育研究環境を整えています。保健師・助産師コースの選択者は、4年間でそれぞれの国家試験受験資格を得ることが可能です。

少人数のグループワーク

グループワークや演習により考える力や探求する力を養います。自分の考えを明確に表現する姿勢や、他者の考えを理解する力を身に付けます。

対面式の個別指導・フォローアップ体制

課題学習に対する対面式個別指導を実施。講義や課題、試験などの個人の学習到達度に応じ、きめ細かにフォローを行います。

看護技術修得の環境を整備

1年次の早期体験実習、2年次の基礎看護学実習、3年次の臨床実習、4年次の統合実習など実技の経験を積み、確かな技術を修得します。

看護学科における資格取得について

【各コース定員】 ●公衆衛生看護学コース…30人程度 ●助産学コース…若干名

※「公衆衛生看護学コース」「助産学コース」について、コース履修できるのはどちらか一方となります。 ※各コース定員については、入学後変動する場合があります。

医学部看護学科では、「保健師国家試験受験資格」「助産師国家試験受験資格」を取得することが可能です。2年生の2月頃に筆記試験・面接試験等によりコース履修者を決定します。

02 実習を重点的に行い、 現場で活躍できる医療人を育成

佐賀大学では実習を重視しており、卒業してすぐに社会で役立てる医療人の育成を行っています。看護学科では1年次から実習を、医学科では5～6年次は臨床を重点的に行い、卒業後すぐに活躍できる力を育てます。

[医学科の実習教育プログラム]

医学科では1年次から医療入門や早期体験学習を導入して、早くから医師としての心構えをしっかりと身に付けるためのカリキュラムを組んでいます。臨床実習では先輩の教員、医員および看護師等と共にチームの一員として患者に接し、PBL等で培った「課題発見・問題解決」能力を有効に応用する経験を積みます。

1～2年次	3～4年次	5～6年次
医療入門 基礎的な医療知識と方法論を修得します。講義に加え、早期体験学習なども実施します。	臨床入門 PBLとCBLによるアクティブ・ラーニングと医療面接や診療など基礎的な臨床技能を修得します。	臨床実習 大学での実践的な診療参加型実習や診療所・病院での地域医療実習で包括的な実践を行います。

6年一貫の実践的訓練

社会で
活躍できる
医療人の
育成

[看護学科の実習教育プログラム]

1年次から4年次まで、病棟で実習を行う臨床実習を取り入れ、基礎から在宅看護までを実際に体験しながら学びます。地域における保健・医療・福祉の関わりや、現在起きている課題に関心・理解を持つことで、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、科学的・論理的な思考で課題を解決する力を身に付けます。

1年次	2年次	3年次	4年次
基礎看護学実習Ⅰ 日常生活を援助する技術力を身に付けます。	基礎看護学実習Ⅱ 看護対象の問題を理論的に解決に導くように育成します。	成人・小児・母性・精神・老年・在宅・地域連携看護実習 今までの知識と技術を統合し、臨床における判断力と看護の想像力を育成します。	統合実習 在宅で生活する人などに対する看護の展開を、医療チームの一員として実習します。

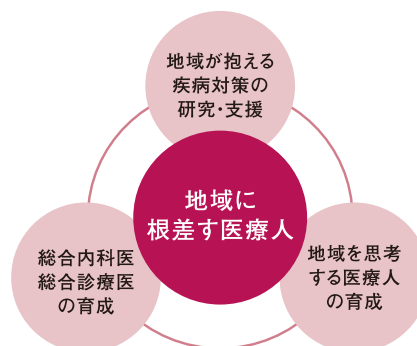
技術試験

技術試験

問題解決や
対人関係形成
能力を持った
人材育成

03 地域の課題に目を向け、患者に寄り添う 誠実な医療人としての志を育む

佐賀大学は佐賀県の中で唯一医師を育成しているため、佐賀県と近隣の地域の医療を担っています。そのため、地域の救急や在宅など現在の課題に目を向け、地域の人々に貢献する患者に寄り添える誠実な医療人を育てます。



地域の健康に貢献しながら 佐賀県を支える看護職の人材を育成したい。

現在は、佐賀県杵藤保健福祉事務所で行政保健師として働いています。感染症の広がりや災害など、いつ発生するかわからない事象に対して健康危機管理体制（災害時医療など）を整備したり、看護学生の実習指導や保健師の人材育成などを担当しています。私が佐賀大学に進学し、働きながら大学院に進んだのは、佐賀県の看護職の育成に貢献したいと思ったからです。同じ志の仲間と一緒に学び、実習を乗り越え、夜遅くまでテスト勉強や国試対策をしたことはとてもいい思い出です。そんな中で培った先生方や友人たちとの関係は今に活かされており、多職種の方との協働が求められる行政の仕事において、縁があって恩師や旧友と共に仕事ができることはとても大きな喜びです。これからも仕事に真摯に取り組みながら、地元や母校に恩返しができるように精進していきます。



佐賀県杵藤保健福祉事務所
企画経営課 勤務
山田 由佳さん 2007年3月卒業

【業務内容】
地域の健康維持・管理をはじめ、災害などで不測の事態が起きた時にも、効果的な対応ができるように取り組んでいる。



詳細情報はこちら

患者さんとの信頼関係を築き
一人ひとりの病状に合わせて
幅広い視点で治療に取り組みたい

本学の医学部は地域医療や臨床医療に触れる機会が多く、1、2年次から大学病院での実習や、医療面接の実習などができる点に魅力を感じ、進学しました。授業では特にPBL（問題基盤型学習）やCBL（症例基盤型講義）が面白いです。出された症例に対して、自分たちで問診する内容や治療法について考えていきます。学生同士でコミュニケーションを取りながら学習していくので学習意欲が高まり、自分で学習する習慣も身につきました。現在は研究室配属で、基礎研究をしている先生方と話をする機会があるのも大きな刺激になっています。大学に入り、これまで知らなかった学問に触れたり、考え方の異なる友人や先輩方と交流する中で、自分の視野が大きく広がったように思います。将来は医師になり、研究も行いながらその結果を臨床でも活かしたいと考えています。

医学科
村瀬 絢香 福岡県 東筑紫学園高等学校出身

学びの特色

1

よい人間関係を持つ人になる

高い倫理観と豊かな人間性を育み、他者と共感してよい人間関係を作ることができる。

学びの特色

2

自己学習できる人になる

医学の知識・技術を修得するとともに、自己学習の習慣を身に付ける。

学びの特色

3

問題を解決に導く人になる

つねに科学的論理的に思考し、問題の本質に迫った解決に努める。

学びの特色

4

医療を理解し実践する人になる

国内外に対し幅広い視野を持ち、地域社会における医療の意義を理解し、かつ実践する。

主な進路

〈主な就職先〉

●佐賀大学医学部附属病院 ●佐賀県医療センター好生館 ●九州大学病院 ●嬉野医療センター ●佐賀病院 ●福岡大学病院 ●唐津赤十字病院 ●九州医療センター ●長崎大学病院 ●長崎医療センター ●自治医科大学附属病院 ●JR東京総合病院 ●大阪大学医学部附属病院 ●京都大学医学部附属病院 ●広島大学病院 等

カリキュラム一覧

1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次			
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
大学入門科目Ⅰ (医療入門Ⅰ)		医療入門Ⅱ		Unit13(臨床入門)				臨床実習 地域医療実習 関連教育 病院実習		臨床実習 地域医療実習 関連教育 病院実習			
基本教養科目 インターフェース科目				救急・麻酔・ 総合診療(1) 循環器 呼吸器 消化器 代謝・内分泌・ 腎・泌尿器		精神・脳・神経 血液・腫瘍・ 感染症 小児・女性 救急・麻酔・ 総合診療(2) 皮膚・膠原 運動・感覚器 精神・脳・神経 社会医学・ 医療社会法制 統合医療						◆共用試験 (CBT、OSCE)	
外国語科目		免疫学 組織学 神経解剖学 薬理学 生化学 微生物学 動物性 機能生理学 植物性 生理学 肉眼解剖学											
情報リテラシー 科目	医療統計学			臨床実習 地域医療実習 関連教育 病院実習									
生命倫理学													
行動科学原論													
物理学													
生物学	分子生物学Ⅱ 人体発生学 肉眼解剖学概説			◆臨床実習後 OSCE									
化学													
分子生物学Ⅰ													
特定プログラム教育科目								基礎系・臨床系 選択科目		総括講義			
基礎系・臨床系選択科目													
地域枠入学生特別プログラム													
PhaseⅠ		PhaseⅡ-A		PhaseⅡ-B		PhaseⅢ		PhaseⅣ		PhaseⅤ			

授業紹介

医療入門



医療には、患者との良好なコミュニケーションを保ち、患者の心を理解しようと努める豊かな人間性と寛容な精神、職業人としての倫理性と責任感に基づき困難な決断を患者と共有する厳しさが求められます。医療入門は、臨床医学の修得前に、講義に加え早期体験学習、医療面接のロールプレイ、身体診察技法およびファーストエイド等の実習、地域の診療型・介護型医療機関での施設実習を行うことにより、医療人としての自覚を高め、少子高齢化を特徴とする現代日本社会における医療の実態を理解し、医療の技術的進歩と社会の急速な変貌が人々の心にもたらす問題に関心をもち続ける態度を身に付けることを目標としています。

臨床実習



臨床実習では、これまで学習してきた基礎医学・臨床医学・社会医学・行動科学の知識や早期体験実習で得られた経験を統合し、病棟での実習を通じて将来医師として必要な考え方や技術などを身につけることができます。診療は、患者さんの病態や背景を理解し治療するために、医師だけではなく看護師・管理栄養士・薬剤師・ソーシャルワーカーなどのメディカルスタッフとチーム医療で取り組んでいます。そのため病棟実習では全人的で総合的に患者さんを診ること、そして多職種連携の面白味、また患者の退院後の生活を考える想像性と創造性を学ぶことができます。

PBL



PBLとは、問題基盤型学習(Problem-based Learning)といわれるもので、従来の講義形式と違い、学生を1グループ7～8人程度の少人数に分け、提示された課題に対し、グループでのディスカッションを通じて、自らが問題点を見つけ解決法を探る、つまり自ら学習する方法のことです。各グループにはPBLチューターといわれる教員が付き、学習を進めるためのアドバイスをを行います。

研究室・講座紹介

分子生命科学講座

出原 賢治 特任教授、副島 英伸 教授
池田 義孝 教授、吉田 裕樹 教授

生命現象の基本的仕組みを明らかにし、その異常により引き起こされる疾患の病態解明を目指して「分子遺伝学・エピジェネティクス」「分子医化学」「免疫学」「細胞生物学」の4分野により教育・研究に取り組んでいます。

社会医学講座

市場 正良 教授、池田 知哉 教授

良好な健康状態を保持するための「環境医学」、癌や生活習慣病の危険因子・防御因子を明らかにして疾病予防に役立てる「予防医学」、DNAを用いた個人識別をテーマとする「法医学」の3分野で教育・研究を進めています。

小児科学講座

松尾 宗明 教授

最先端の医療技術をもって診療にあたるとともに医学生卒前や卒後の教育を重視し、小児の総合診療医としての小児科専門医の育成と各専門分野でのサブスペシャリティの養成に力を入れています。

整形外科科学講座

膝関節外科、肩関節外科、脊椎外科、手外科など、幅広く診療を行っている中でも、特に股関節外科は全国屈指の手術症例数です。また、人工関節の開発などの基礎研究の成果も多く、学会でも注目されています。

産科婦人科学講座

横山 正俊 教授

全ての婦人科悪性腫瘍に対応できる県内唯一の施設である強みを生かし、診断・治療、フォローアップ、臨床研究、特に子宮頸癌に関してはHPVIに関連した発癌機構の解明と新規治療法の開発の研究を行っています。

放射線医学講座

佐賀県唯一の最先端放射線機器類を駆使して、画像診断、インターベンショナル・ラジオロジー、核医学、放射線治療の各分野で一致団結して日夜、教育・研究・診療に励んでいます。

臨床検査医学講座

末岡 榮三朗 教授

さまざまな疾患の発生機序やその疾患の治療に対する反応性などを総合的に解明することにより、臨床業務に役立つ新規の臨床検査の構築と、そのための技術開発を目指し研究を行っています。

(附属施設)
地域医療科学教育研究センター

小田 康友 教授、川口 淳 教授

「数理解析部門(教育IR室)」 「福祉健康科学(社会生活行動支援)部門」 「医学教育開発部門」の3部門で構成され、地域包括医療人材育成などの目標を持って活動しています。

生体構造機能学講座

倉岡 晃夫 教授、城戸 瑞穂 教授
安田 浩樹 教授、寺本 憲功 教授

生命体の構造(形態)とその働き(機能)の解明を目指して「組織・神経解剖学」「解剖学・人類学」「生理学」および「薬理学」の4分野に分かれ、それぞれの分野で教育・研究を進めています。

内科学講座

杉田 和成 教授、木村 晋也 教授、江崎 幹宏 教授
野出 孝一 教授、小池 春樹 教授

内科の専門8部門「膠原病・リウマチ内科学」「呼吸器内科学」「神経内科学」「血液内科学」「循環器・腎臓内科学」「消化器内科学・光学医療診療部」「肝臓・糖尿病・内分泌内科学」と「皮膚科学」の教育・研究を進めています。

一般・消化器外科学講座

能城 浩和 教授

「体に優しい」低侵襲の鏡視下手術を積極的に行い、全国でもトップクラスの手術率を誇っています。また、腫瘍制御に関する基礎研究もっており、腫瘍の悪性度診断、浸潤転移機構の解明などの研究を行っています。

脳神経外科学講座

阿部 竜也 教授

対象疾患は、脳腫瘍、脳血管障害、脊髄脊髄、小児脳神経疾患など広い範囲に及びます。特に詳細な外科解剖の研究に基づいた手術と新規治療開発に関する研究に立脚した悪性脳腫瘍の治療に精力を注いでいます。

眼科学講座

江内田 寛 教授

特に網膜剥離や糖尿病網膜症などの網膜硝子体疾患に力を入れ、加齢黄斑変性やお子さんの斜視・弱視など、長期にわたる疾患に対しても、地域の医療機関と連携し、患者さんの利便性を考慮した診療を行っています。

麻酔・蘇生学講座

坂口 嘉郎 教授

「手術室での麻酔」「集中治療」「ペインクリニック」「緩和ケア」の分野で診療と研究を行っています。手術など大きな侵襲に対する生体の反応を制御する侵襲医学の研究や、難治性の痛み治療を向上させる研究などに取り組んでいます。

救急医学講座

阪本 雄一郎 教授

初期診療体制の充実、救急集中治療体制の構築と共にドクターヘリ基地病院、佐賀広域消防との医師同乗救急車事業によって、九州で3ヶ所目となる、高度救急医療を行うセンターとしての役割を果たしています。

(附属施設)
先端医学研究推進支援センター

(併)吉田 裕樹 教授、(併)川口 淳 教授

学際分野を含む医学研究の先端的・中心的役割を担い、学内外への発信を行うと共に、医学部の教育研究の基盤となる高度な技術的支援とその研鑽を行うことで、医学・看護学の課題を重点的に研究することを目指しています。

病因病態科学講座

宮本 比呂志 教授、青木 茂久 教授

疾病の機序の解明を意図して、細菌や微生物感染に対する生体防御機序、動脈硬化症や癌の病理学、癌や肥満症などの生活習慣病の分子生物学の研究を「微生物学」「診断病理学」「臨床病態病理学」の3分野で進めています。

精神医学講座

溝口 義人 教授

“患者と共に在れ”をモットーとし、うつ病をはじめとするストレス関連疾患、老年精神疾患など変貌する精神科医療に対応すべく、リエゾンコンサルテーションなど他の診療科と協力しながら、さらに研鑽を重ねています。

胸部・心臓血管外科学講座

蒲原 啓司 教授

心臓血管外科と呼吸器外科から成り、患者さんの目線で最高の医療を実践し、地域医療に貢献し続けるために24時間体制で診療に励んでいます。我が国でも有数の心臓の再生医療に取り組んでおり、日夜研鑽を重ねています。

泌尿器科学講座

野口 満 教授

副腎、腎臓、尿管、膀胱、前立腺などの後腹膜臓器および泌尿生殖器の疾患を担当しています。常に患者のQuality of Lifeを尊重した医療をモットーとし、内視鏡・体腔鏡手術、ロボット手術など最新の医療技術を提供しています。

附属再生医学研究センター

中山 功一 教授

新しい再生医療技術の樹立を目指して「足場材料を使用しない3次元の複雑な組織形態を再現できるバイオ3Dプリンタ」を開発してきました。現在はこれを用い、血管や軟骨、肝臓、心臓の作製にもチャレンジしています。

耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学講座

杉山 庸一郎 教授

のど・鼻・口等の癌を最新の診療技術を用いてチーム医療で治療し、その治療成績向上を目指した研究を行っています。また、聞こえや発声などの機能障害や、嚥下障害、味覚障害などの改善を目指した診療や研究も行っています。

歯科口腔外科学講座

山下 佳雄 教授

口腔がん、口唇口蓋裂、顎変形症、顔面外傷など口腔外科疾患を専門に診療・研究・教育を行っております。特に顎骨再建へのインプラント義歯の応用や顎顔面補綴を積極的に行い、県民の「口腔健康管理」に努めています。

国際医療学講座

青木 洋介 教授

Globalizationや高齢化により大きく影響を受ける感染症の診断と治療を行います。一般感染症、免疫不全感染症などの臨床的疑問点を明らかにし、医療の質保全と向上に資する臨床研究を遂行できる人材を育成します。

研究室・講座紹介

社会医学講座(環境医学分野)

市場 正良 教授、原 めぐみ 准教授
松本 明子 准教授、西田 裕一郎 講師



社会医学講座は、医学の中では衛生学・公衆衛生学という領域を担当し、予防医学とも呼ばれます。その中で、我々の環境医学分野では、人を取り巻く環境の健康影響を考えています。例えば、空気中の化学物質を分析し、その健康影響を探るために血液や尿など生体試料中の化学物質やその代謝物の分析、あるいは代謝の仕組みや個人差について追究しています。特に様々な化学物質を取り扱う産業現場での作業環境や健康管理を考える産業医学は、重要な課題です。産業医という専門医資格もあります。これらの研究成果は、大学内での安全衛生管理や地域社会での実践活動に生かされています。

脳神経外科学講座

阿部 竜也 教授、増岡 淳 准教授、中原 由紀子 講師、吉岡 史隆 講師
緒方 敦之 講師、伊藤 寛 助教、古川 隆 助教



脳神経外科は、脳・脊髄に生じる疾患の予防、急性期治療、慢性期治療を網羅的に担う診療科であり、脳神経外科医は、外科医の目と技を持った神経総合医です。脳腫瘍、脳血管障害、脳血管内手術、頭部外傷、先天奇形、水頭症、てんかんなどの機能的疾患、脊椎・脊髄疾患など幅広い診療を行っています。従来の顕微鏡手術に加え、近年は血管内手術、内視鏡手術、定位的手術、細胞療法など多彩な手術や治療に取り組んでおり、女性医師の活躍も目立ってきています。臨床に繋がるような基礎研究にも積極的に取り組んでおり、世界水準の医療の実践と研究の推進ができる若手脳神経外科医の育成に励んでいます。



詳細情報はこちら

確かな知識と技術を身につけ
緊迫した状況でも冷静かつ
柔軟に行動できる看護師に

中学の時に手術を受け、その時に出会った看護師に憧れて看護師を目指すようになりました。本学は1年次の前期に臨地実習があり、早くから実践的な看護を学ぶことができることに魅力を感じ、志望しました。現在は、小児看護、急性期看護、慢性期看護、がん看護、老年看護、在宅看護など、様々な領域における看護展開について学んでいます。特に看護技術の授業では、吸引や注射などの実践的な技術に取り組むことができるので好きです。グループワークの演習も充実していて、同級生と一緒に課題に取り組みながら学びを深めたり、いろいろな考えを知ることができて刺激を受けています。グループワークでの演習を通して協調性が身につく、また自分の意見を端的にわかりやすく伝えることができるようになり、自分が成長できていることを感じています。将来は患者さんやその家族と信頼関係を大切に、患者さんの気持ちに寄り添える看護師になりたいです。

看護学科
佐藤 那砂 福岡県 八女高等学校出身

学びの特色
1

豊かな感性を持つ人になる

看護職者にふさわしい豊かな感性を備え、人を尊重する態度を身に付ける。

学びの特色
2

看護の知識と技術を持つ人になる

的確な看護実践ができるように、看護の知識と技術を修得する。

学びの特色
3

問題を解決に導く人になる

看護の多様な問題に対処できるように、自ら考え解決する習慣を身に付ける。

学びの特色
4

地域に貢献できる人になる

社会に対する幅広い視野を持ち、地域における保健医療福祉の活動に貢献できる基本的能力を養う。

主な進路

〈主な就職先〉

●佐賀大学医学部附属病院 ●九州大学病院 ●福岡市立こども病院
●九州医療センター ●昭和大学病院 ●大阪医科薬科大学病院 ●熊本大学病院 ●九州がんセンター ●琉球大学病院 ●長崎医療センター
●産業医科大学病院 ●鹿児島県庁(保健師) ●福岡山王病院(助産師) ●小倉医療センター(助産師) ●高等学校教員(養護教諭) 等

カリキュラム一覧

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
大学入門科目	ライフサイクルと看護				臨地実習 (成人) (老年) (小児) (母性) (精神) (在宅) (地域連携)	臨地実習 (統合)	
情報リテラシー科目							
外国語科目	臨地実習 (基礎)	基本教養科目または インターフェース科目	ライフサイクルと看護			統合分野	
基本教養科目または インターフェース科目			看護の機能と方法				
看護の機能と方法							
臨地実習 (基礎)	統合分野						
専門基礎科目							
			助産学コース				
公衆衛生看護学コース			公衆衛生看護学コース			公衆衛生看護学コース	

教養教育科目

専門基礎科目

基礎科目

統合分野

看護専門科目

授業紹介

老年看護学概論



高齢者の健康問題に関する基礎的な知識を踏まえ、生活史の聴取やシミュレーション学習などに取り組みながら、高齢者の身体的・心理的・社会的特徴について理解を深めます。

臨地実習



病院での実習と、地域・在宅実習をひとつにしたもの。1年次の早期体験実習、2年次の基礎看護学実習、3年次の臨地実習、4年次の統合実習で構成されています。

成人看護学援助論Ⅱ



成人患者の特性をふまえ、代表的な慢性疾患を持つ患者および家族が抱える健康問題に対し、病気と折り合いをつけながら生活できるよう支援方法を学修します。

研究室・ゼミ紹介

基礎看護学



看護教育学、看護援助学(看護技術・コミュニケーション・看護過程論を含む)、看護管理と、看護の基本となる分野を幅広く担いながら、研究も進めています。

成人看護学



肺がん患者さんの手術後1日目の心身の状態をアセスメントして発表しています。術式や麻酔の種類、年齢などによって、起こりえる状況が異なってきます。

小児看護学



小児看護学領域では、様々な子どもと家族を理解し、発達過程で生じる健康問題の解決のため、個別性に応じた看護実践に繋がる教育・研究を行っています。得られた成果を地域の教育に活かしています。

母性看護・助産学



母親の育児負担を軽減するグッズや産後随腸炎の予防プログラムの開発、助産師の教育方法などの研究に取り組み、その成果は学会で発表だけでなく教育や地域に還元しています。

卒業生の主な卒業論文テーマ

- 看護師の夜勤に関する仮眠の実態と影響
- アトピー性皮膚炎児の学校生活における困難と学校の支援
- 日本語の文献から検討する摂食障害をもつ自閉症スペクトラム患者への介入内容とその効果について
- 保育園・幼稚園看護師が感じる困難感についての文献検討
- 助産師による父親への育児指導に関する文献検討
- 新人看護師におけるPNS導入のメリット・デメリットについての考察
- がん患者のGood Deathに関する研究
- 認知症の家族を介護する家族の心情の変化に関する文献検討
- 性教育における多職種連携の現状と課題
- 地域でのボランティアによる子育て支援の現状と課題